

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

# TAKATSUKI

Days

気持ちいい音を探して

10 充実する救急医療

18 介護予防マイスターになりませんか

42 子育て施設に遊びに行こう

令和4年

7

No.1412



高槻を育んできた自然の音。  
豊かな恵みを与える音。

まちじゅうに

時間が止まる場所がある

何気ない日常のなかには、気づけば時間を忘れるほどに聴き入ってしまう音がある。たとえば水の音。まちなかで聴く小川のせせらぎや公園の噴水もあれば、山あいにはザァザァと響き渡る溪流や滝もある。たとえば緑の音。深い森のざわめきもあれば、サラサラとした街路樹の葉ずれもある。鳥や虫など、ときおり聴こえる生きものの声も心地いい。市の面積の約半分という森林。そして、市最北の山林から湧き出し、淀川まで流れる芥川。高槻の大地に育まれた豊かな自然は、流域を中心に市街地にも広がっている。水辺で、緑の下で。まちのあちこちで、ふと聴こえる気持ちいい音。そっと目を閉じ、耳を傾けてみれば、知らない間に癒されていく。



豊かな自然は自分たちで守る

高槻の美しい自然が守られているのは、NPOなど有志による清掃活動をはじめ、市民の力によるところが大きい。たとえば、芥川倶楽部では「魚みち」を作って芥川にアユの遡上をよみがえらせるなど、多様な生きものが共生できる活動に尽力。森のプラットフォームでは、森林の保全活動に努める一方で、森林管理の知識や技術を習得できる「市民林業士」養成講座も行うなど、森林ボランティアの育成に力を入れている。



水路や滝があるせせらぎ緑地。近所の公園の噴水、道の脇の小川など、水の音は身近なところにたくさん



まちなかの愛され水辺空間といえば芥川桜堤公園

水

大自然に包まれるすがすがしい時間が過ごせる摂津峡は、中心部から車で約15～20分ほど

# 緑

サ  
ラ  
サ  
ラ



摂津峡をはじめとする森のなかには、鳥や虫たちの声も元気

## 鳴き声も楽しめる 高槻の生きものたち

自然に恵まれた高槻では、多様な生きものが暮らしている。カジカガエル<sup>※</sup>やモリアオガエルなど、特に貴重なものは市の「保護動物」に指定。また野鳥も多く、芥川中流・上流域の山林ではオオルリやキビタキ、サンコウチョウ、クロツグミ、市街地の住宅街ではインヒヨドリなどの声が楽しめる。これからの季節は、草むらにいるバッタやコオロギの仲間の声も。

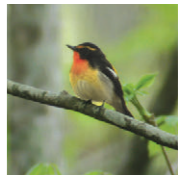
※「摂津峡のひぐらし・かじかの声」「鶴殿のヨシの葉ずれの音」は21世紀に残したい「大阪の音風景」(大阪府)のひとつ



カジカガエル



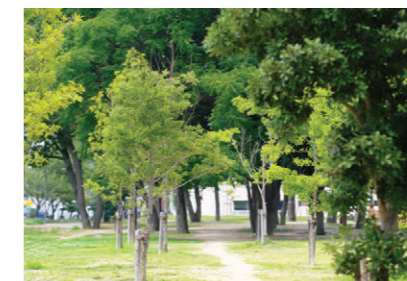
オオルリ



キビタキ



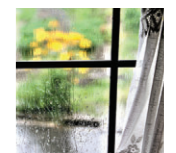
インヒヨドリ



今城塚古墳公園に豊かに茂る並木

## 日常は、ASMRの宝庫。 高槻はステキな音にあふれている。

数年前からYouTubeやテレビなどでも話題の「ASMR」<sup>エーエスエムアール</sup>。Autonomous Sensory Meridian Responseの略で、音などの刺激によって脳が快感を感じる感覚や反応を指し、「自律感覚絶頂反応」とも訳される。気持ちいいと感じる音は人それぞれ。ASMR専門のYouTubeチャンネルも多く、川の水音や木々の葉音といった自然の音はもちろん、まな板で野菜などを切るトントン、ザクザクといった音や、漬物などをバリバリと噛み砕く音、ザーザーと降り注ぐ雨がリズムカルに窓を打つ音など、ASMRには日常の音などもいっぱい。高槻で暮らす人たちにとっては、日々の音こそが「高槻の音」。自分好みの気持ちいい「高槻ASMR」を集めてみるのも楽しいかも。





# 将棋

パチッ

「将棋のまち」は高槻城の時代から  
武家屋敷が広がっていた高槻城の三  
の丸跡からは、江戸時代の小将棋や  
中将棋の駒が多数出土。当時から将  
棋が広く楽しまれていたことがわか  
える。明治以来、棋士の輩出率が比較  
的高い高槻は、今、関西将棋会館の  
移転先でもある「将棋のまち」として  
も注目されている。例年1月に開催の  
「王将戦」は今や高槻の冬の風物詩。  
次回のタイトル戦で「音」を楽しむの  
もアリ？

歴史に育まれた雅な音は  
今の時代も心地いい

高槻では伝統的な日本文化も古くから育まれて  
きた。  
たとえば、将棋。一手を指すときのパチッという  
音は、緊張感がありつつも小気味よく、心が静か  
に弾む。  
茶の湯や和歌などにも縁が深い高槻。茶せんで  
抹茶を点てるときのシャカシャカという音は清ら  
かで、心を落ち着かせてくれる。歌人が詠む歌を  
書くときに墨をする音もそう。硯の上をやさしく滑  
らせるシャリシャリという音はさすがしく、いつ  
までも浸りたくなる。



高槻の歴史とともにあった音。  
心豊かな文化をつなぐ音。



シャカ  
シャカ

# 茶の湯

高槻を代表する茶人 高山右近  
戦国時代、武将たちは茶の湯を好み、  
高槻城主でキリシタン大名としても知  
られる高山右近もそのひとりだった。  
右近は茶道を大成した千利休の優れた  
弟子「利休七哲」とも評された。江  
戸後期には、日用の器とともに茶器も  
つくる古曽部焼が開窯。大正初期に  
途絶えたが、昭和後期に高槻で再興  
をめざす陶芸家が窯を開いている。



シャリ  
シャリ

歌人の名歌を伝えた書道具  
歴史に残る歌は、墨とともに生まれて  
きた。高槻にも歌にまつわる史跡が残  
されている。なかでも古曽部は、平安  
時代、「古今和歌集」にも登場する三  
十六歌仙の女流歌人・伊勢が晩年を過  
ごした地。中古三十六歌仙の能因法師  
は伊勢の歌風を慕って古曽部に居を構  
え、詩作にふけたそう。玉川も古歌  
に詠まれた全国六カ所の「六玉川」の  
ひとつ。松尾芭蕉の句碑がある。

# 和歌



Instagram高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」7月号特集のこぼれ話を配信中!

